＜有識者　特定非営利活動法人シルバーサービス　理事長　新家（あらや）　則之　氏＞

県　側　　県病院の使命と役割についてですが、どのようにお考えでしょうか。

新家氏　　私どもは、高齢者や障害者の移送サービスをボランティアでやっており、飛騨地域は山が多いものですから横への移動が難しいのです。縦の移動を繰り返さなければなりません。ということで皆さん病院通いには非常に苦労しておられます。移送サービスをやっていても、利用のほとんどが通院です。

診療科目が少なくなってきた問題もありますが、医師サイドの対応が常識人としては考えられないというような問題もあります。医師に対しては需要と供給についても違いますし、私自身は先生の教育うんぬんいってもしょうがないので、先生と患者をつなぐボランティアをコーディネートしていただければ両者の潤滑油となってよいと考えます。

南飛騨地域に住む者にとって、下呂温泉病院に対して期待する使命とか役割というのは大きいです。おそらく岐阜市民の方が総合医療センターにかける気持ちとは、雲泥の開きがあると思います。金銭感覚に直せないところがある。交通の便が悪いので、そういう意味では下呂温泉病院に来たらなんとかなるという形にしたい。その一つとして院内開業医のような制度の利用もあるのではないでしょうか。

県　側　　院内開業医というのは、大きな病院があって、その中で欠けている診療科については部屋を貸し出して開業医の方が入られるという形ですね。

新家氏　　そうです、ドクターモールというのでしょうか。それは下呂温泉病院でも、例えば泌尿器科とか耳鼻咽喉科とかでしょうか、眼科や皮膚科もそうですね。里帰り出産というのも下呂温泉病院では受けていただけるようですからありがたいなという声も聞こえております。ただ急性期の小児科、産科と小児科どっちをとるといったら産科はなんとかなるだろう。小児科はやっぱり欲しいなあといっている方もみえました。

難しいかもしれないけど３つを持株会社のように１つの会社にぶら下げる、若しくはそれぞれ独立はしてるけれど、１つで統括するような形がよいと考えます。

要は医療従事者である皆さんが働きやすい組織であればいいので、特に県立病院という必要は無いように思います。

県　側　　経営形態については、病院があることが大事で、診療科がそろうことが大事で、そういうことができるのであれば県の直営でなくてもかまわないというイメージ

でよろしいですか。そこに行けばちゃんと見てもらえるという安心感を住民の方が持つのが好ましいということですね。

新家氏　そうです。それと、なぜ院内開業医を招へいしてまで診療科目が欲しいというと、やはり交通の便なのです。横への移動が難しい地形で、お年寄りばかりで、そのお年寄りを運ばなくてはいけない。家族は働きに出ていますから、お嫁さんがパート勤務の途中で抜け出すというのは難しい。その点で、通院するのは、できれば一箇所ですむと大変喜ばれると思います。

下呂温泉病院という名称なのですから、温泉を使った整形、リハビリはもっと充実させ、それを下呂温泉病院の売りにするというような役割分担ができるとよいですね。

冒頭でも触れましたが、病院の上手な利用方法を支援していただけるような、ボランティアの MSW（メディカルソーシャルワーカー）を育成していく事も、（医師と患者）双方にとって大切なことと思います。